

質問日	令和元年 10 月 2 日 (水)			質問方式	分割方式		
質問順位	7	会派名	自由民主党浜松	議席番号	45	氏名	鈴木 育男
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 2040 年問題について	<p>2040 年代になると人口減少が進み、高齢者人口がピークを迎え、労働人口不足が深刻化し、社会保障費が増大すると言われている。</p> <p>国では、自治体戦略 2040 構想研究会や、第 32 次地方制度調査会で議論が進められているが、自治体もその置かれた立ち位置の中で考えていかなければならない。日本中金太郎飴にする国の施策の踏襲だけではうまくいかないと思うが、所感を伺う。</p>						鈴木市長
2 区再編と、住民投票を「地域社会を切り捨てる政策と自治体政治」と題した雑誌コラムから	<p>区再編について議会も議論してきた。しかしながらその方向は決まらず、市民の選択を尊重して方向を見据えようと議会も合意して住民投票となった。結果は 3 区案は反対、再編はわずかながら賛成が多いという結果となった。今議会は新たな構成となり、住民投票の総括を終え、今後の方向を探っている。</p> <p>そんな折、自治体関係者を主な読者層とする雑誌に以下のようなコラムが載っていた。</p> <p>「もうひとつ注視するべきは、統一地方選と同時に行われた浜松市での住民投票である。現在の七つの行政区を 3 区に再編しようとするもので、結果的に住民の過半数が 3 区への再編に NO を突き付けた。</p> <p>もともと浜松市は 2005 年に、地政の異なる 12 市町村が大規模合併してできた。当初は都市内分権のクラスター型都市と称して、旧市町村ごとに地域自治区を設けたが、2007 年の政令都市化で中山間地を括り上げて七つの行政区に再編し、2012 年には地域自治区制度も廃止した。さらに今回は合併以前の中小都市も周縁化させて、浜松駅周辺の中心部への投資を加速しようとする意図が見え隠れしていた。</p> <p>開票結果は歴然としていて、周縁化される地域での反対が多かった。だが、そもそも周縁部の住民数は中心部よりも少ないから、多数決に持ち込まれると今後も厳しい。こんなふうに地域社会を切り捨てる政策が続けば、市民が自治体政治への忌避感を抱くのも当然かもしれない。」</p> <p>「こんな風に見られているんだ。」が私の感想。私は区の再編を今後の厳しい時代を乗り切る新たな方向への第一歩と捉えたいと思ってやってきたし、今もそう考えている。</p> <p>市長は浜松は一つと主張して当選。行政の効率化を進め、市民福祉の向上を図り、都市の中での浜松の地位を</p>						鈴木市長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 浦川歌舞伎休止について	<p>上げてきた。区の再編もその延長線上にあるものと思うが、地域社会を切り捨てるというこうした意見に対して反論してほしい。そしてどうするかを語ってほしい。</p> <p>先日新聞で佐久間町浦川の歌舞伎が今年限りで休止されることが伝えられていた。高齢化、人口減、運営資金不足等が重なり、現状存続が難しいとのことだ。表にはあまり出ないが、同じような事象が市内各地に数多くあるものと思われる。</p> <p>こうしたところから、地域コミュニティの崩壊が始まり、地域の持続性が危うくなっていくと思う。市長の感想を伺う。</p>	鈴木市長
4 限界集落について	<p>限界集落、定義では、65歳以上の人が50%を超えた集落をいうとされている。国は公式文書では「基礎的条件の厳しい集落」「維持が困難な集落」といった言い方をしている。</p> <p>一時期、国中で限界集落が話題となり、今にもどんどん集落が消え去っていくような感覚で見えていた。この頃は少し落ち着いているようであるが、現状本市ではどのようなになっているか。限界集落と認知している集落はどこにいくつあり、今後の動向をどう見ているか。加えてその扱い、対応について、どのように考えているか伺う。</p>	鈴木市長
5 区協議会について	<p>区協議会の委員は市長が任命、諮問に答えることが基本的な任務。当該地域に係る市政全般に関し、市長等に対する建議、要望も役割の一つとなっている。</p> <p>そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 天竜区、北区、西区において、区協議会を通じての建議・要望はどのようなものがあつたか、旧市町村単位での要望・建議等はあつたか、また、その内容は、地域課題を反映しているものと思っているか伺う。</p> <p>(2) その解決策として、どのような対応をしてきたか伺う。</p> <p>(3) 旧市町村では、本庁の意思、即ち、旧浜松の意志を押し付けられているといった被害者意識が見え隠れする。合併時のバラ色の未来が灰色の現在になっている。現状の区の協議会が、少なくとも合併市町村の思いや意志を吸い上げる機関となり得ていないように思われるがどうか伺う。</p>	鈴木市長
6 都市内分権について	<p>合併前の旧市町村が培ってきた自治力、地域力が衰退しており、むしろ少しでも上を向くような施策の展開が今求められていると考える。そこは、かつて住民が協議して決定することを保障された地域政府であつた。</p> <p>今、都市内分権、地域の活性化が地方自治体での大き</p>	鈴木市長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>な課題となっている。地域の維持と活性化は、その住民が自ら考え実行してこそ形になり、持続可能なものとなる。旧市町村が浜松の中で政治的、行政的に住民意見を主張し、実現できる仕組みとして、地域協議会、もしくは地域自治組織を復活し、有効に機能させる方策を早急に検討すべきである。そして地域課題が地域住民の声として上がってくる仕組みを構築すべきと考える。</p> <p>旧浜松も含め、地域コミュニティの再構築と、安心・安全なくらしづくりは地域活性化の原点であり、行政の仕組みを変えることで区の境をなくし、それぞれの地域特性を生かした集合体で一つの浜松をつくるといった方向性を求めるべきだと思うがどうか伺う。</p>	
<p>7 「70歳現役都市・浜松」共同宣言について</p>	<p>健康寿命日本一（政令市）の元気な高齢者が、これまで培ってきた知識や経験を生かし、年齢にかかわらず地域の産業や社会を支える人材として活躍し続ければ、本市の発展、安心・安全な社会生活の実現に大きな力となることが期待される。そこで、誰もが健康で明るく、生きがいを持って現役で活躍できる都市を目指すという主旨のもとに共同宣言がなされた。</p> <p>そこで具体的にはさまざまな角度で動き始めていると思うが、市、商工会議所、シルバー人材センター、社協で、就労や社会参加など、どのような事業方策を講じていくのか伺う。</p>	<p>渡瀬産業部長</p>
<p>8 業務改革、BPR（Business Process Re-engineering）について</p>	<p>2018年度の都市経営諮問会議の答申にある、市役所像2050に向けた重点的な取り組みとなっている市役所業務の抜本的な見直しに関して、本市でも以前から実施していると聞く。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 現状の業務の抜本的な見直しについて、どのように、どうしているのか、その状況を伺う。</p> <p>(2) 郡山市では、郡山スタンダードと称し、業務改善に取り組んでいる。全職員の業務量を調査分析し、改善の方向を示し、削減される業務量や人件費まで算出しており、内部組織の検討会で毎年度検討を繰り返している。浜松もこうした方向を目指すものと理解している。聞くところによると、札幌市、神戸市では2年間かけて外部民間会社により業務量分析が行われ、その分析が的確であるとの評価がなされている。</p> <p>本市において他都市の状況に鑑み、見直し効率が高いと思われる部署で実施してみるのも一策であり、客観的な分析と合わせて、札幌や神戸の業務プロセスとの比較もでき、自己分析との違いも確認でき、より精緻なBPRの推進につながると思うが考えを伺う。</p>	<p>川嶋総務部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>9 学習支援事業について</p>	<p>ひとり親家庭や生活困窮世帯など、経済的困難を抱える家庭の児童に対し、義務教育期からの学習支援を実施することにより、学習や進学に対する意欲を高め、貧困の連鎖を断ち切る、という主旨のもと、平成29年から週1回2時間の学習支援が始まっている。年間140万円の委託事業として、現在17会場で定員435人を目途に運営されている。内容は学生、教育OB等のボランティアによる無料の個別学習指導である。</p> <p>ついては以下3点について伺う。</p> <p>(1) 事業実施3年目となるが、定員に対する充足率が低いと聞くが、いかほどか。またその要因をどう考えるか伺う。</p> <p>(2) 始まったばかりではあるが、事業効果の検証をしていると聞く。その結果について以下伺う。</p> <p>ア 何が見えてきたか伺う。</p> <p>イ 本当に支援が必要な子供に届いているか。家庭のニーズに応えられているか伺う。</p> <p>ウ 支援事業の質についてはどう考えるか伺う。</p> <p>(3) さまざまな問題を抱える子供や家庭に関して実態の把握が必要であるが、その体制はどうなっているか伺う。</p> <p>合わせてそうした実態を分析、管理、監督指導する場や統括協議できる場の設置といったトータルなサポートが必要である。どのように考えるか伺う。</p>	<p>金原こども家庭部長</p>